



名鍍会報告

H19. 8

名鍍会の活動について報告します。

平成19年6月9日（土）14：30から、東京都鍍金組合内（めっきセンター）において日本鍍金協会の合同役員会が開催されました。

合同役員会は、名鍍会（名古屋）・十日会（東京）・青研会（大阪）の各会の役員が集まり、第一部では今年度日本鍍金協会にて行なわれる「秋季大会」「年次大会」についての打合せが行われました。

第二部のディスカッションでは、遠藤会長（十日会）による「めっき屋は儲からなくてはいけないんだ」との掛け声により「見積大会」が行なわれました。

見積大会は、出席した各社が持ち寄り展示されたサンプル品を、1人ずつ見積をしていく方法にて行なわれました。

愛知・東京・大阪の地域格差が出るのでは？と思われていましたが、各業種による企業間の格差が出ていたようです。

自社での基準にて見積る人や、気分？で見積る人など見積方法は様々でしたが、めっき単価の適正化に向け同業者間で対談出来た事は、非常に有意義であったと思います。



また、平成19年6月20日（水）19：00から6月度例会が開催されました。5月度例会に続いて今回も鈴木伸治公認会計士事務所の鈴木様に「実践！決算書から読み取るキャッシュフロー経営のポイント」というテーマで、決算書の見方について講演をして頂きました。

我々めっき業界は、取り扱う製品が有償・無償または、支払いが手形・現金など各社の取引先により形態が様々であり、鈴木様自身も我々の業界に興味を持たれていた様です。

M. M記